



# その想い



第16号

発行人：谷泰智

3年7月15日発行

## ★ 富嶽両界峯入 9月30日から10月5日まで

上記の日程で今年も富士山へ修行に行って参ります。昨年は全ての山小屋の営業が停止され、五合目より上も事実上封鎖の状況でしたので、村山古道の前半から時計回りに富士山の裾野を回り、道中滝行も挟みながら樹海を抜ける修行となりました。

オリンピックを控え、その後の状況も未知数ではありますが、今のところ今年は封鎖が解かれるようですので、この度は例年通りに海から3776mの頂上に登拝できそうな見込みです。

前々からお伝えしている通り、大和修験會は護国寺の総本山である聖護院門跡に所属する団体であり、同じ聖護院末寺として私の大先輩に当たる宮元隆誠師が代表を務めております。宮元師の「末寺から本山を盛り上げたい」という想いに共鳴した私に加わって早や5年、今年が通算11回目の富士山修行となりますが、毎年新たな気づきを学ばせていただき、また有難い事に年を重ねる毎に檀信徒皆様から頂く祈願・回向のお申し込みは増えております。

多くの方々に支えられ、想いを託され、決して自分一人の身体ではないのだと言い聞かせながらの山修行。そこには感謝に堪えない気持ちはもちろんなのですが、正直に申し上げると「己の力を確かめたい」という気概のようなものが常に胸の奥底から湧き出ています。その気概は、ともすれば自己満足と背中合わせのように思われますが、私はこの事に関しては、既に富士山の赤い礫を何万回と踏みしめる中で不惑の思いに至りました。

現在、日本の各伝統宗派が以前よりもより社会に歩み寄ろうとして、様々な革新やはたまた原点回帰に取り組んでいる中、修験道の本分である山岳での頭陀行は仏教の根本精神に大いに適うものであり、また体性感覚を忘れがちな現代に於いては心身の健康を保つのに大変有効で貴重な体験になるはずです。参加を希望される方が居られましたら護国寺にお電話ください。また今年も別紙にて特別祈願・回向のお申し込みを受け付けております。富士山麓の興法寺大日堂ならびに富士山頂にて心より御祈念させていただきますので、こちらをご希望の方は是非お申込みください。



平成30年、五合目にて

令和元年、富士山頂  
浅間大社奥宮にて令和2年、陣馬の滝にて滝行の後、  
代表の宮元隆誠師とならんで

## ★ 佐川町長寿大学で講演させていただきました

少し前の事になるのですが、去る3月18日に佐川町社会福祉協議会からのご依頼を受けて、健康福祉センターかわせみにて90分間の講演をさせていただきました。『活かせる仏教』という演題で国内の伝統仏教諸派に共通する四諦・八正道・六波羅蜜という基本的な仏教学を日常生活でのいろんな場面に関連付けて比較的平易にお話させていただきました。

仏教には大きく二つの側面があり、一つはお釈迦様を始めとする諸仏諸菩薩への信仰という宗教としての側面。そしてもう一つはお釈迦様の解かれた法という教えを学び、地に足を付けた生活の中で実践する、宗教ではない側面。今回は後者の話であり、実際後者の話の方が万人受けするのですが、今後は自身の経験や学びを踏まえながら、少しずつ信仰の世界もお伝えしていけたらと考えています。